



いのちの 太陽たち

37

ガンを治し、輝く人生を手に入れた人たちの
感動の体験を紹介するシリーズ。

病を契機に人生を見直し、生き方を変え、
新しい価値を見出した人たち。

美しいものに心を満たして喜びに溢れ……
この人たちを「いのちの太陽」と呼ぼう。

豊岳道子さん

(1958年生まれ)



なんてバカな私!!

落ち着いた住宅街。バス通りから少し
坂道を上がると、ビワの樹が菁々と葉
を茂らせている庭……。と、玄關に続く
敷石の向こうに豊岳道子さんの輝く笑
顔があった。

ここにパートナーの彼と一緒に住
むようになって20年になります。イ
ンドに瞑想の勉強に行って、そこで
彼と出会ったんですよ。古いけど、
大好きな家。

もう9年前になります。この家
のこの部屋にいて、ほんとになにげ
なく胸を触ったら、固いしこりがあ

りました。

「えっ、これってガン?」。あわて
て近くの公立病院に行って、検査を
受けると、乳ガンIV期、すぐに入院
して全摘手術と言われました。その
ときはIV期が末期だつてことも知ら
なかったのですけど、ガンって言わ
れてそれだけでガン(笑)。頭の中
は真っ白。あわてて家族に電話しま

した。田舎の母は明日こっちに来てくれる、仕事の関係でアメリカにいた彼も、すぐ帰国してくれることになり…。でも、その日はこの家に私は一人でした。

私、真っ白になったけれど、不思議に真っ暗じゃなかったんです。

その頃私は人間関係や仕事でたいへんなストレスを抱えていて、病気にでもなつて死んでしまいたいとまで思い詰めていました。ですから、「あつ、やつちゃった!」「願っていたらほんとにガンになっちゃった!」って真っ先に思ったんですよ。

その一方で、大変だ! 死ぬかもしれない! 死ぬのはイヤ。神様助けて! と叫んでいる。そしてその悲劇のヒロインの私を、眺めている自分がある。空の上の方から私を見下ろしていて、「なんてバ

かな私」と言ってるんですよ。

私は、ひとりきりで、大笑いしてしまいました。はっはっは、って声を出して…。

「神様がお前の願いを叶えてくれたんだよ、それなのに神様助けてだつて!」「なんてバカナ私!」…。

笑いながら、心の奥の方で自分のいのちは滅びない、絶対死なない、という声がしていました。神様にお願ひして自分でつくったガンなんだから、今度は自分で治せるんじゃないか。原因は分かっているんだから、



彼と一緒に呼吸法の勉強に韓国を訪問。

それを改めれば治るんだ。

「ごめんなさい、もう私は自分をいじめるのをやめます。生きたいんです、神様。私は生きるんです!」

その日はとてもハイな一日でした。「母さん、心配しなくていいよ、来なくていいから」と実家に電話したほど。だけど次の日、母が来てくれると、すぐに駆けつけてくれたのがうれしくて、一緒にオイオイ泣きました。



切る? 切らぬ??

病院は、当然のように全摘手術を勧める。しかし…。豊岳さんの気持ちは揺れる。

実は、私は医者の娘なのに手術はイヤ。自分の身体にメスを入れられるくらいなら、死んだ方がまし。し

かも、胸をとるといふんですから、思っただけでもクラクラしちゃう。

臆病なんですね(笑)。母は最初から私が切らないで治すのを応援してくれたし、お世話になっていた自然療法の先生の所にすぐに行くと、「このぐらいいは、押さえ込める。ガンになつたらチャンスだ。あんたはガンより心配性を治しなさい」と言われ、自然療法を即実践しはじめました。

それでもセカンドオピニオンを聞くため、彼と母と三人で、国立がんセンターに行きました。超音波検査ではガン細胞はすでに見当たらない。しかし、最初の細胞診で、ステージⅣのガンがみつかったから、手術はしなければいけない。開けて「胸をくりぬかないと」ガンがあるかどうか分からないというんです。

開けてみて、違つたら、どうするんですかって聞いても、とにかく手術の一点張り。それもリンパまで

そっくり切除するという。

入院の日が決められた後に、「私は自然療法で治します」と、はっきり言いました。そうしたら、くすつて鼻で笑われて……。先生方にしたら、この人は何をバカなことを考えてるのつて思つたことでしょうね。

ところが、それからなんです。大病院、しかも天下のがんセンター。断つたら、もう何があつても二度と受け入れてくれない。そう思うとさすがに怖くなりました。

こんな不安な状態でいた時、彼が言ってくれたんです。

病院に入院して胸を切り、暗い顔をして生きている君を見たくない。君にはいつも明るい顔で輝いて生きていてほしい……。

目に涙を溜めて、私を応援するために彼がそう言ってくれたとき、私のはうれしくて胸の中に光がパーツと入ってきたようでした。

ああ、これでいいんだ。どっちも早く死んでしまつたらいいと考えていたんだから、もし一年生きられたら、すごいもうけもの。一年の間とにかくさんのことができる。ほんといろんな可能性があるし、古い自分が生まれ変わらないとガンは治らないつていうメッセージなんだ。

長年、私はストレスマネジメントの仕事をしてきて瞑想やセラピーを通して、病気をつくっているのも自分だし、病気を治せるのも自分。要するに、どっちを選ぶのも自分の選択ということが、身にしみて分かっていました。若い頃からベジタリアンだったので、食事はそれほど悪くなかった。でも、死んでしまいたいと思うほどの大きなストレスを自分でうまく消化できなかったから、病気になってしまった。原因あつての結果です。自分で自分の考え方や生き方、意識を変えていけばいい、

原因をときほぐしていけば、治るはず。同時に自然療法の先生の教えてくださった自助療法を徹底的にやろう…。

ただ、私が手術しないと決めたのを知って、父の跡を継いでいた医師の兄からは、「なんで切らんのか。乳ガンは切ったら生還率が高い。故郷の山口に帰って入院してくれ」って涙ながらに言われました。

兄は早くに父を亡くした私たち兄弟にとって、家長の役割を果たしてくれていて、普通の女の子のようにちゃんと結婚もしないでいる私のことをとても心配してくれていたんです。兄の愛情を痛いほど感じて、申し訳なさど、感謝の気持ちでいっぱいでしたが、「自分の身体だから、自分で治したい」と答えたのです。この時に、もし失敗しても自分の責任だから後悔はしないと自分に誓いました。



頑固、頑張り、 我慢のし過ぎ…

いつそ死んでしまいたいとまで豊岳さんを追いつ込んだストレスとは…？

ガンになる一年ほど前、趣味で音楽活動をしていた私に、あるイベント企画が持ち込まれたんです。ところが、そのお相手のミュージシャンは、大変な人で、この人と組んだら、ストレスで死んじゃうかもって思った。なのに、引き受けたんです。

頼まれるとイヤと言えないで、よっしゃ！ とばかりに手に負えないことまで抱えてしまう私。ちょうどその頃、人間関係のストレスで自暴自棄になっていたのもあり、頑固、頑張り、我慢のし過ぎをしてしまいました。

半年間がむしゃらに頑張ってた1000人収容のライブハウスに、なんとか500人を集め、終わったとたん、ガソリン切れ(笑)。その直後にガンが見つかりました。

そのうえ、責任者が行方不明になってしまつて、経費の支払いがまだだったことが分かったんです。私は全くのボランティア。お金の責任はないはずだったのに、借金まで抱えることになって…。

自分で治すと決め、酵素断食、温熱療法、ヒーリング、イメージ療法、瞑想と、分刻みのスケジュールで自助療法に取り組んでいたのに、そんなことがあったせいか、体調はおもわしくなく、半年後、代替療法の先生からも、自然療法の先生からも子宮に転移していると告げられたんです。一生懸命やって来たのにショックで生きる意欲がぐんと落ちてしまつた…。

でも、本当にラッキーなことに、彼の仕事上のお付き合いのある方が、沖縄で鍼灸院をされていて、私のことをきいて、こっちに来なさいと言ってくれました。沖縄は、若い頃住んでいた

ことがある、懐かしいところ。一月ほど、お友達の家をやっかいになって、その鍼灸院に通いました。

そこでは、いろんなワークショッブや講演会も開催されていて、そこで、たまたまガン患研の川竹さんのお話を直接聞くことができたんです。沖縄での一ヶ月は、次々に助け舟が現れてくるし、ああ、今日も生きてる、ありがとって感動しまくりの毎日でした。

そんなある日、不思議な体験をしました。

「カミンチュ（神人）」という、神と人の媒体となる一種のシャーマンに、友達が会わせてくれたんです。



第2回千人集会に
〈治ったさん〉として参加!

その方が、「天の岩戸」と言われているところに連れて行ってくださった。真っ暗な穴の中を這いつくばってしばらく行くと、そこは戦争中に、カミンチュが、何千人もの住民を避難させて戦渦をまぬがれさせたという、とっても大きなガマ（ほらあな）。

宇宙の子宮のような場所で涙が止まらず、生かされている感謝で、幼子のように安らかな気持ちになりました。

次の日、10人ぐらいのカミンチュさんと別のガマを訪れました。皆さんで「地球は、生きたいのか、それとも生きたくないのか」と、手をつないで地球の意思を長い間探っていた。

たのですが、「地球は生きると決めた。これから、みんなでスイッチ、オンにしよう」と言って、大きな岩のスイッチをみんなでいっせいに押したのです。

その瞬間ドンという音とともに「地球は生きるぞ！」と「私は生きるぞ！」がばしっと合わさりました。

自分は、地球の細胞の一つ。自分達一人ひとりが地球の運命をつくっているんだ。自分が治れば地球も元気になるんだ！

生きる意欲を失っていた私に、いのちの力がよみがえってくる、夢のような不思議な体験でした。



神様の契約

生きる意欲を取り戻した豊岳さんは、再び様々な自助療法に邁進する。自分のガンをも喜びの細胞にするために…。



「アースパラダイス」の仲間達と。

お医者さんに頼らないことは、人任せにしない努力と覚悟が必要です。運動療法、温熱療法や瞑想など心と体にいいことをやり通す。そして、ネガティブなパターンを変え、心の傷を癒し、感情を解放してあげることで。わくわくと恋する気持ちで楽しく治そうと、おしやれもして…。

沖縄で出会った川竹さんの考え方にはとても共感し、『いのちの田圃』

や教材を購読し、セミナーにも参加。当時あった、(治ったさん)への突撃取材隊の活動にも加わり、随分勉強して、希望をもらいました。

そのころ友達が教えてくれたハーブな呼吸法も、直感的にこれだっと思っただけで治すメニューに加わり、どんな体調がよくなり、マーカー値も安定。一年以内に腫瘍マーカーの反応は消えました。

そうして、5年が過ぎた頃、私の悪いくせ、頑固、頑張り、我慢のし過ぎをしてしまったんです。タイ式マッサージの勉強をして夜遅くまで働いたりして、体調がいいものだから、調子に乗ってワイイって(笑)。そしたらガクツときたんです。体調も最悪。自然療法の先生にも、今まで一番悪い状態だと言われた。

一度ガンになった人は、無理して調子を崩すと、坂道をころげるのは、早い。それが分かっていながら、油

断したんです。目の前に死神がいる感覚。あっちに行こうと思えば行けるぞって感じ…。

ここまでできたら死を受け入れ、心配をなくしてやれるだけのことをやるうと、知り合いのお坊さんにお葬式を頼み、母にもしもものときはやっかいになるからねと電話して、そうして腹を据えて、自分の生命エネルギーに賭けようと思いました。

死ぬ気で治す。死んでも治す(笑)。100日間呼吸を達成しますって、神様との契約をしたんです。契約書もちゃんと書いて。「人事を尽くして天命を待つ」です。

瞑想と呼吸法、そして尿療法や温熱療法も毎日欠かさず…。100日間終わった時はまだ何か達していないと感じたので、200日間、やりとげました。

一日一日、生きるエネルギーが溜まっていくのが分かり、200日間

達成で、沸点みたいなどころに達したんです。自分の内側から野生の生命エネルギーがみなぎって、天と地と自分が繋がっている感じでした。

心に2%ほど占めていた「完治なんてありえない」がゼロになりました。自分のいのちに大きな自信ができました。絶対100%自分で治せるんだ！



アースパラダイス

「反対していたお兄さんも「お見事！」の一言！ 豊岳さんは一層自分を輝かせることに挑みつつける。

昨年の千百人集会でへ治ったさんバッチを贈られて、とつてもうれしくて、でも、責任を感じてすごいプレッシャー！ 養生は一生続く。だから油断は出来ない！

学生時代に引きこもりやうつを経験し、追いつめられた時に、いのちの恩人とも言えるインドの瞑想家の先生に出会うことができました。そして、ガンになったおかげでたくさん素晴らしい人たちに助けられました。これからは宇宙にご恩返し。愛と感謝のワクワク人生です。

私は、こういう生き方を選んで生まれてきたんだと思います。いろいろな試練を乗り越えて人の役に立ちなさいという天命を持って…。ガンは私たちの天命に気づくための神様からのメッセージ。

「二人が治って微笑めば300人のガン患者が救われる」

川竹さんがこうおっしゃっていますね。自分が治って輝けば、何人もの人が喜んでくれるってすごいこと。そ

れに地球の細胞の一つである自分がいきいきと幸せになれば、地球だってパラダイスですよ。

同じ考えの人と「アースパラダイス」というバンドを持ち音楽活動をしているんですよ。私はバイオリンを弾いて歌を歌い、彼もギターで参加しています。新しい地球のための「癒しの家」を創る夢もあります。

武士道では「死ぬことと見つけたり」っていうけど、私たちのアースパラダイス道では、「笑いながら生きる」と見つけたり」なんですよ。



2003年乳ガンⅣ期

自分でつくったガンは自分で治すと、手術を断り、再発、転移の危機も乗り越え、自然療法を貫き、よりいっそう輝く人生を手に入れる。